

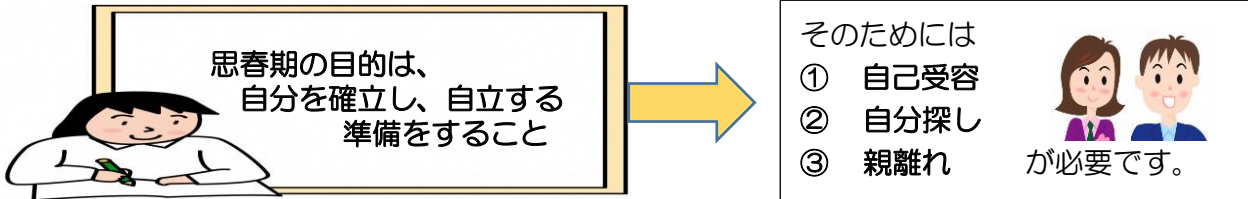
Dr.ひろみの

ハッピー子育てひろば



☆プロフィール☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医

みなさん、香川大学医学部の鈴木です。お元気ですか。
みなさんは「きのう何食べた？」というよしながふみさんの漫画やドラマを見たことがありますか？私は末娘とNetflixでよく観るのですが、料理好きな弁護士とおネエな美容師のゲイカップルの話です。2人のやり取りを見ると、家族とはこうすればうまくいくんだと教えられます。「ありがとう」「おいしい！」「うれしい」「幸せ！」毎回、何気ないシーンで出てくる言葉です。嬉しい気持ちや感謝の気持ちを素直に言葉で表現することができれば、うまくいくことは多いですよ。



今回は2つ目の『自分探し』です

親は子どもにいろいろなことを期待しています。例えば、



公立高校に行ってほしい

大学は地元の国立に行ってほしい

安定した「堅い」職業についてほしい



親の期待と自分の能力や関心、希望のはざまで、子どもはどうしたらいいかわからず、自信を失い、自分を見失いがちです。

自分探しは、自分の意思で自分の道を模索し、決める行為です。親の意見を大きく取り入れた決定は、不本意な結果となったときに親子の間に修復しがたい溝を生んでしまいます。「本当はそんなことしかなかった。親のせいで自分の人生は台無しだ」と。子どもにとって、主体的に進路選択ができなかったことが、生きることを困難にすることもあります。

もちろん、親からの助言も有益なことはあります。ただ、将来、現在ある仕事の多くはAIが肩代わりしてなくなってしまったり、現在ない仕事が多く生まれたりすると言われてしています。そんな未来を生きる子どもに、私たちが本当に役に立つ助言ができるのかは疑問です。

私たちができることは、子どもが様々な出会いと体験を通して、**自分の人生を考え決定するプロセスを見守り応援**することです。「自分が決めた」という実感は、「自分の人生に責任を持つ」という意味で重要です。**聞いてあげてください。「あなたはどうしたい？」**と。



どう
あなた
はた
はい
？

みなさんは子どもに小遣いをあげたり、自分の銀行口座をもたせたりしていますか。お金の管理はどのようにしているでしょうか。**お金のことを考えることは、自分の人生を考える**ことです。今後の進学に当たって親がどれくらいのお金を用意できるのかは早目に話しておきましょう。例えば私立に行くには不足していたとしても、「国公立に行けないなら、就職しなさい」などの言葉は親に対する不信感につながります。子どもの希望通りのお金を用意することだけが親の役目ではありません。用意できるお金を伝え、限られた資金の中でも、奨学金や特待生制度、アルバイト、全日制以外の進路先などの情報を親も一緒に集めることで、多くの選択肢を見つけることができます。**お金に向き合い考えることは、自分の選択に責任をもち主体的に生きる**ことにつながります。